# 綾の照葉樹林 プロジェクト活動報告

ガイド養成講座の様子

2005年にスタートした綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画(綾の照葉樹林プロジェクト／通称綾プロ)は、九州森林管理局・宮崎県・綾町・(公財)日本自然保護協会・(一社)てるはの森の会の5者が官民一体となって取り組んでいる森づくりです。令和4年度は35事業を実施しました。その内容の一部と、今年度から取り組む新たな事業を紹介します。

## 獣害防除のための忌避剤散布

県が管轄する「25世紀の森」では、シカやウサギの食害からカヤを守るため、獣類が嫌がる匂いの薬剤を幹に塗って獣害対策を図っています。薬剤散布は年に2回。山で獣類の食べ物が不足する10月～2月に実施しました。

## 森の案内人 ガイド養成講座

2022年9月～2023年2月までに月1回のガイド養成講座を開催し、16人のガイドが誕生しました。伝える技術や話し方を身に付けた新ガイドは、これから実践活動を重ねながらさらなるスキル向上を目指します。

## ボランティア林床植生調査

綾プロエリアにおける自然林の復元状況を把握することを目的に、ボランティアと協働で林床の植生調査を実施。2010年・2015年の調査と比較すると綾プロエリア内の林床植物の種数がさらに減少したことが分かりました。ニホンジカの食害対策が継続的な課題となっています。

## シカの行動・生息状況把握調査

これまでに行ってきた復元の試行とその効果検証のモニタリング調査などから、シカの影響により復元が進んでいないことが明らかになっています。照葉樹林の復元に向け、一定の区域においてシカの捕獲圧を高めることにしており、令和4年度は、シカ捕獲を効果的に実施するための基礎資料となるシカの行動把握調査(GPS首輪装着)と生息状況把握調査(定点カメラ22基設置)を実施しました。

## 新事業 ドングリの育苗

これまでの調査やモニタリングで、シカの摂食による影響が大きいことが明らかになっています。そこで、綾プロエリアの照葉樹林の復元を目指す新たな事業として、今年度はドングリを育苗し植栽する取り組みを始めます。

この4月には、綾小・中学校での環境教育の一環として、生徒がドングリの種まきを行いました。これから苗を育て、2～3年後に綾プロエリアに植樹する計画です。

綾ユネスコエコパーク推進室・綾ユネスコエコパークセンター
☎77-3482　URL https://ayabrcenter.jp
※エコパークセンターは毎週日・月曜日および祝日休館
休館などの情報はホームページで随時更新します

## おとなの山学校 モニターツアー開催

綾の照葉樹林プロジェクトの一環として活動している地域づくりワーキンググループ(てるはの森の会主催)は3月11日、「おとなの山学校」の本格実施に向け有料モニターツアーを行いました。

「おとなの山学校」は上畑地区の山暮らし体験ツアーで、3つのコースが設定されています。今回は「猟師と里山歩き」コースに5人のモニターが参加。町猟友会の小西俊一会長の案内で、山道を歩きながらイノシシを捕獲するためのワナなどを見学しました。

また、昼食にはジビエ料理や地元産の野菜をふんだんに使った料理が提供され、参加者からは「身も心も満足できました」などの声が寄せられました。

## Column ヤマメ

通常、海を下って大型化するサケの仲間のサクラマス。サクラマスのうち、淡水の中で一生を送るものをヤマメ(漢字では山女魚)と言います。

綾町を含めて県内の山間の渓流域によく見られ、釣り人にも好まれる代表的な魚ですが、放流個体も多く、地元の個体と交雑が生じるなど純粋な天然のものは極めて少ないとされています。

パーマークと呼ばれる丸い斑点があり姿が美しく、冷たい清流を好んで生息しているため、「渓流の女王」と呼ばれています。ヤマメが暮らせるような清流をこれからも大切にしていきたいものですね。